

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
6月17日発行 NO. 9
文責 出崎 友英

信じる力

いよいよ運動部活動は市中体連大会が始まりました。吹奏楽部や合唱部、放送部などはそれぞれのめざすコンクール・コンテストがやってきます。私の部活動(サッカー)での忘れられないエピソードの中から、1つ紹介します。

わがチームは、ある強豪チームと対戦しました。相手が圧倒的に強くて、0-6で負けていました。

試合も終わりに近づき、後半ロスタイム。それでもあきらめないでボールを追いつけ、どうにか我がチームは1点取りました。

勝敗とは全く関係のない1点でした。1-6で試合は終わりました。

疲れて、うなだれながらベンチに帰ってきた選手たちに、私はこんな話をしました。

「よーし！よくぞ1点取れたじゃないか。1点は、2回同じことができれば2点になるし、3回やれば3点になる。でも0は何倍しても0のまま。0点は何回やっても0点なんだ。君たちが最後にもぎとったあの1点は、次につながる可能性の1点なんだぞ。」

(負け惜しみのような、あまり説得力のない話だな…)と、私は話しながら思っていました。



それから2ヶ月後のことでした。

1-6で負けたその相手と、再び対戦する機会がありました。そして、あの日大敗した相手を3-0でやぶるジャイアント・キリングを彼らは起こしたのです。

これまで負け知らずの連戦連勝だったその強豪チームは、「まさか…」という雰囲気でした。いや、ベンチで試合を見ていた私ですら、「まさか…」と思ったほどです。

試合後の彼らは、ロクに「先生の言ったとおりでしたね。」と、晴れやかな顔をして言いました。あの時の私の負け惜しみのような言葉を、彼らはまるごと信じて戦っていたのです。

「先生、おめでとうございます。」と優勝カップを渡されました。偶然にもその日は、私の誕生日でした。

その勝利は、とてもすてきな誕生日プレゼントになりました。何かを信じて戦うことが、とても大きな力となるということ、彼らは私に教えてくれたのです。

君たちにも、何か信じるものが必ずあるはずですよ。

これまでの苦しかった練習の日々、一緒にがんばってきた仲間との絆、あの時の先生やコーチの言葉、うまくできたり、壁を乗り越えたりした経験…。

その信じるものをしっかり心に持って、正々堂々と戦ってきてください。がんばれ。錦ヶ丘中！

勝ったなら、静かに帰って来い。
負けたなら、胸を張って帰って来い。

中体連等激励会がありました。

6月13日(月)、「中体連等激励会」がありました。市中体連大会に出場する選手たち、コンクールに挑む吹奏楽、合唱、放送の各部の皆さん、そして美術部、科学部の日頃の活動を激励しようという会です。それぞれの代表の決意の言葉がとても心に響きました。これまでの練習の中で積み重ねてきた努力を自信にして、持てる力を思う存分発揮してください。みんなで応援しています。



▲ 選手代表の決意の言葉

お知らせ・お願いです。

○6月16日(木)、学校評議員会を行いました。5人の学校評議員さんに授業を参観いただき、今年度の経営方針や学校の様子などを説明しました。評議員の方々からオンライン授業配信や不登校生徒のことなどのお尋ねがありました。評議員の皆様、ご来校ありがとうございました。



○9組の皆さんがジャガイモの収穫をしました。3ヶ月前に中庭に植えた苗が大きくなり、土を掘ってみると適度な大きさのジャガイモがたくさんとれました。担当の先生によると、「日当たりが十分でなかったのが心配していたが、たくさんできていたのでよかったです」とのことでした。9組の皆さん、おつかれさまでした。



本気でやっていたら、
きっと誰かが助けてくれる。
「先生のコトバ集」より